週　報
こひつじ
第41巻　10号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師　米村　英二

パンの奇蹟

その三　余ったパン切れを捨てないように

ニコラス宣教師が、この大津町で伝道を始めたとき、建物を貸してくれた大家の矢島さんは、宣教師には好意的だったが、伝道については悲観的だった。そして言った。

「ここは田舎で、保守的な町だから、子どもはともかく、大人が来ることはないと思いますよ」

するとニコラス宣教師は答えた。

「大人が無理なら、子どもを伝道します。いずれ、彼らが成長し、私が去った後、この町の伝道を継続してくれるでしょう」と。

これもまた、二宮の「積小為大」（小を積んで大と為す）の原理であって、はたしてその通りになったのである。

今一つ、考えてみたいのは、パンの奇蹟のあと、イエスが語られ次の言葉についてだ。

「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい」（ヨハネ六の一二）

ある修道院の黙想室に一冊のノートが置いてあり、その表紙にこの言葉が書いてあったのだが、それを読んだ人は思ったそうだ。

わずかなパンをあれほど多くふやした後で、なぜ残りのパン屑まで拾い集めることを、イエスは命じられたのかと。

おそらくそれは、祈りの時、思い浮かんだ言葉や小さな閃きを一つもむだにしないで集め、記録しなさいという意味だったのだろう。

あるいは自分の過去に起こった出来事には、むだなことは一つもなく、もしそれを集めるなら、そこから大きな教訓を学ぶことができるという意味であったかもしれない。

モーセは主の命により、荒野における彼らの旅程の出発地点をもらさず書き記したとある。（民数記三三の二）

宿営地の数は全部で四十数カ所。記録されているのは、その詳細ではなく一覧表である。

荒野における宿営地を一覧表にすることによって、モーセは四十年の歳月を一瞬にして展望することができたのである。

そのとき当時は気がつかなかった神の意図を彼は読みとったに違いない。それだけではない。どの宿営地においても神の恵みが十分であったことに驚いたことだろう。

私にも人生年表がある。

それには自分の年齢のほか、子どもたちの年齢やその年の主な出来事、印象に残った本の題名などが書き込まれおり、一目で自分の人生の全体を見渡すことができるようになっている。

やや意外だったのは、妻についての記録である。

妻は、英語はできるが、若い頃、外国へ行ったことはなかった。それどころか子育てに専念するため、子どもが小さい間は旅行はやるまいと決めていたほどだ。おそらく自分の人生は家庭人のまま終わるだろうと彼女は思っていただろう。

ところが記録を見ると、彼女が外国へ行った回数が私よりも多いのだ。

子育てが終わった頃、大津町から国際交流の計画があるので手伝ってくれないかと言われ、やがてネブラスカのヘイスティングスという町と姉妹都市が提携されると、彼女は町長の通訳を頼まれ、アメリカに渡った。その後は、ホームステイプログラムの中高生たちを引率して何度も渡米することになった。こうして実に彼女はほぼ毎年のように海外旅行をしているのである。みな町からの依頼だった。

神がパンを与えられたとき、残

ったパン切れを集めると一二かごもあったように、神は、彼女に溢れるほどの恵みを与えておられたのである。

だれでも天国へ行って、自分の人生を振り返るとき、神の恵みが溢れるほどにあったことを知って感謝することだろう。

そのために過去の記録はむだに捨てないで集めておきたいものだと思う。そして神の恵みの数々を数えてみたいものだと思う。

「余ったパン切れを、一つもむだに捨てないように集めなさい」

とはそういうことなのではないだろうか。（終）

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。

○説教は長岡舞子さん。

先週の礼拝

○司会は林田実季さん、説教は、ヨハネ第一の手紙からの続きで、三章九、一〇節から、だれでも神から生まれた者は罪のうちを歩みません。いや歩むことができないのです。それはなぜか、について語りました。

○礼拝参加者は、第一礼拝が五五名、第二が三三名、合計八八名（男二九、女五九）。それに子どもが五名、合わせて九三名でした。

CSピクニック案内

今回のCSピクニックはボーリングです。四三月から中学生になる子どもたちの卒業祝い、それに一年間家族とともにオーストラリアに行く木下託磨君の送別会をかねています。

今回の参加予定者は子ども、スタッフを含め一〇名程度。教会から費用の半額が補助されます。またCSのこのような活動のために献金箱が用意されています。

詳細は次のとおり。

日時＝三月二三日（日）午前一〇時出発、午前一二時現地解散。

場所＝菊陽ボウル（三里木）

参加者の費用＝五〇〇円程度。

ジョンさん家族への献金

ジョン・ボストロム宣教師が先日、突然、天に召されましたが、その家族のために皆さんからの温かい献金が寄せられました。合計二〇万円ありましたので、さっそくお送りしました。また個別に百万円ささげてくださった方がありました。皆さまの愛に感謝します。まだいやされない日々を送っている家族にとって励ましであるかと思います。

春の特別集会

奈良市にある奈良福音教会の緒方賢一・智子夫妻を招いて左記のように特別集会を開きます。

三月二九日（土）午後三時

証を中心にしたおふたりのお話。その後質疑応答。そして交わりと軽食（食事代は献金）。

三月三〇日（日）午前一〇時（合同礼拝）

緒方牧師の説教と智子夫人の証。そのあと昼食及び質疑応答。

便り

ジョンさんの告別式に出られた方からこんな便りをいただきました。

「ジョンさんの死を通して、再び主のみもとに、おそばに行かなければと思わされた者です。ジョンさんが、生前、『この本を読んで。ぼくは励まされたから』と手渡されたのが『急がずに、休まずに』という先生の本です。一〇年も棚に置きっぱなしであったその本をきのう一気に読み、感動しました。本の最後に書かれた、先生の書かれた他の本にも興味がわきました。私だけでなく娘たちにも読ませたく思いますので、お送りいただけないでしょうか」

こうして二〇冊の注文をいただきました。そして代金とともに献金が送られてきました。「彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお、語っています」とアベルについて言われていますが、ジョンさんも語り続けているのだと思います。